

平成29年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校創立以来の教育方針である「質実剛健」「文武両道」を旨とし、自ら学び、自ら考え行動する心豊かでたくましくバランスのとれた、国際社会に貢献する人間力あふれた人材を育成する。

- 「守る伝統から創る伝統へ」のキャッチフレーズのもと、古き良き伝統を継承しながら、「グローバルリーダーズ・ハイスクール(GLHS)」として、地域にねざしつ積極的国際交流活動を行い、国際感覚の育成をめざす。
- 生徒の進路実現に向け、大学との連携等を通じて学習活動の充実を図り、コミュニケーション能力、問題解決能力、科学的思考力を育成する。
- 生徒の自主性を重んじ、生徒会活動や部活動の活性化を図り、グローバルリーダーとしてふさわしい人格の形成をめざす。

2 中期的目標

1 「確かな学力」の育成と進路実現への支援

(1) 「確かな学力」3要素の育成

- ア より高い授業力を求め、研究授業や授業アンケートなどを活用して授業研究を行う。
※ 暇高アンケート(生徒)における「授業の工夫」に対する肯定率を85%以上に引き上げる。(H28 81%)
- イ 「主体的・対話的な深い学び」のある授業作りの研究・実践を行う。
- ウ 校内のICT環境の整備を進め、ICT機器を効果的に活用した授業の研究・実践を行う。
※ 教科特性に応じた主体的対話的な深い学びのある授業を、授業実践を通じて教科ごとに構築する。(実践事例集の作成)
※ 暇高アンケート(生徒)における「授業満足度」(暇高の授業は必要な力がつく)の肯定率を90%以上とし維持させる。(H28 88%)
- (2) 高大接続システム改革に対応した指導と評価のあり方を研究・実践し新制度入試での進路実現に備える。
ア 「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」に関する研究を行い、求められる「思考力・判断力・表現力」育成の指導と評価に反映させる。
イ 課題研究・探究活動を通じて、「思考力・判断力・表現力」及び「主体的に協働しながら学ぶ力」を育成する。
※ アンケート(生徒)による課題研究等への肯定率を80%以上とする。(新規)
- (3) 生徒が自己の将来像を描き、希望の進路を実現するための指導と支援の充実を図る。
ア 飯盛セミナーや大学研究室訪問など、大学や企業で活躍する社会人から学ぶ機会を設けてキャリア発達を促す。
イ 学習合宿等の実施や自習室の開室などにより、生徒に自学自習で学ぶ習慣を定着させる。
ウ 大学入試の傾向及び生徒の学習状況を分析し、生徒の状況に応じた講習・補習等を行ない、自学自習の効果を向上させる。
※ 暇高アンケート(生徒)における、「先生は質問によく答えてくれる」の肯定率95%以上を維持する。(H28 96%)
※ 第一志望現役合格率50%以上をめざす。京都大学・大阪大学・神戸大学の合格者合計80名。

2 社会に貢献できる「豊かでたくましい人間性」の育成

- (1) グローバル社会においてリーダーとして活躍できる資質の育成。
ア 充実した生徒会活動、部活動等により、たくましい人間力を育成する。
※ 複数の部活動における近畿大会以上への出場を継続させる(H28 6部9種目が近畿大会出場)
イ 頭髪・服装・挨拶・マナー等の指導を徹底するとともに、環境や人権に対する意識の向上を図る。
※ 生徒アンケートにおける「挨拶をよくしている」の肯定率90%以上。
- (2) 社会人基礎力となるコミュニケーション能力等の育成。
ア 1年生の情報プレゼンテーション大会(霜月杯)・英語暗誦大会(如月杯)、2年生の課題研究成果発表会(2回)などの取組を通じて、コミュニケーション能力や、主体的に協働しながら課題に取り組む力や表現力の向上を図る。
※ 校外での各種コンクール等への応募数及び入賞数毎年10名以上をめざす。(H28 入賞7件)
- (3) 国際的な視野を広げ、異文化を理解するため、国際交流活動を充実させる。
ア 台湾、オーストラリア、ドイツ、ベトナムなど海外との交流を活用して、大学や関係機関の協力を得ながら、グローバルリーダーの育成に取り組む。
イ 国際共通言語としての英語が使えるよう、TOEFL仕様の授業や講習を実施し、実用英語力の向上を図る。
※ CEFRでのB1以上の到達率40%以上、B2以上5名をめざす。(H28 B1:27% B2:2名)

3 学校力・教員力の向上

- (1) 機動力のある組織体制づくり
ア 進行中の教育改革にも迅速かつ柔軟に対応できるよう、ミドルアップダウン型の運営体制により組織内の共通認識と機動力を高める。
イ グローバルリーダー育成のための教育活動が更に推進されるよう、組織体制の再構築を図る。
- (2) 研修等による教員力の向上
ア 校内研修を計画的に実施し、本校の教職員として必要な資質・能力の向上を図る。
イ 初任者研修や10年経験者研修等を活用し、OJTを通じて教員が相互に影響しあいながら教員力を向上する体制をつくる。
- (3) 広報活動の充実による教育力の向上
ア 積極的な広報活動により、本校の特色とアドミッションポリシー(求める生徒像)を発信し、本校で学ぶ意欲の高い志願者を集める。
※ 学校説明会への参加者総数(年間)2,000人以上を維持する。(H28 2,868人 H27 2,814人 H26 2,482人)
- (4) 安全で安心な学校生活を送れるよう環境を整備する。
ア 個人情報管理の適正な管理を行うとともに、万が一事故が発生した際に迅速かつ的確に対応できる体制を整備する。
イ 支援や指導を要する生徒に対して適切な対応ができるよう保護者や関係機関との連携を強化するとともに、校内の生徒相談体制をより一層充実する。
ウ 地震、大雨等の災害や事故等発生時の連絡体制の徹底を図り、適切かつ円滑な対応ができるようにする。
エ 障がいのある生徒が安全で安心な高校生活を送れるよう、合理的配慮と必要な支援を行う。
- (5) 地元信頼される学校づくりを推進する。
ア 四條畷市等と連携を進め、地域と協働した取組みや小中学校との交流などを積極的に行なう。
イ 部活動や学校行事、課題研究の成果発表など本校の教育活動を通じて、地域貢献に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成29年12月実施分]				学校協議会からの意見		
質問内容	肯定率[%]			生徒	保護者	教員
	生徒	保護者	教員			
(1) 学校の満足度。(保護者:生徒が生き生きしている。)	86.5	97.8	-			
暇高は楽しい。	88.3	89.7	-			
(2) 教え方にさまざまな工夫をしている先生は多い。(教員:工夫している)	82.7	-	92.0			
興味を感じる授業が多い。(教員:興味・関心を持たせる工夫をしている)	71.6	-	92.0			
(3) 担任以外にも悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる。	66.1	-	74.0			
学校生活についての先生の指導は納得できる。(教員:理解を得ている)	80.7	94.4	88.0			
将来の進路や生き方について考える機会がある。	89.9	93.1	82.0			
生命の大切さや社会のルールについて考える機会がある。	79.1	91.2	66.0			
いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる。(教員:体制が整っている)	90.3	91.5	80.0			
(4) 暇高祭は、楽しく行えるように工夫されている。	94.6	94.8	92.0			
部活動に積極的に取り組んでいる生徒が多い。	95.8	97.3	94.0			
(5) 本校の課題研究の取組みに満足。	68.8	90.8	72.0			
本校の国際交流(台湾修学旅行・オーストラリア研修等)の取組みに満足。	87.7	93.4	92.0			
(6) 成績などの内容についてプライバシーが守られている。	92.3	92.3	66.0			
人権を尊重した指導への取組み。(教員:十分に話し合われている)	-	93.5	40.0			

(1) 学校への生徒の満足度は高く、保護者からも高評価を得た。

(2) 生徒の授業満足度は91%と高く、ALやICTを活用した授業も増加した。ただし、「授業の工夫」や「興味を感じる授業の多さ」では、生徒と教員との意識の差が見られ、生徒に興味・関心を持たせる授業を多く展開することが課題である。

(3) キャリア発達を促すための、生徒指導・進路指導・教育相談等については、概ね高く評価されている。ただし、担任以外に相談できる先生がいると答えた生徒は66%にとどまっており改善を要する。また、生命の大切さや社会規範については、生徒の肯定率は高いものの教員による自己評価は低いため、取組みへの教員の共通認識を高めていきたい。

(4) 行事・部活動については、いずれも高評価でありこれを維持させたい。

(5) 課題研究への生徒の満足度はあまり高くない。課題研究にはよく打込み、発表会では外部評価者により高く評価いただいた。それ故、より高いものを求めていたことが自己評価の厳しさにつながったものと思われる。
国際交流は、生徒にとって満足度の高いものとなっており、一層の教育効果を高めたい。

(6) プライバシー保護や人権尊重への取組みは、より意識を高めていきたい。特に人権課題や指導方法について、教員間で十分話し合っているとの観点で教員自身の自己評価が低く、取組を進めていく必要である。

【第1回】平成29年7月4日(火)

- GL(グローバルリーダーズ)部の取組みは、意欲的だが教員の負担は大きく大変なのではないか。働き方について、何か解決方法はあるのか。
→多忙な中で、いかに効率的に取組むかが現在の課題。組織で取組むことで個人の負担を減らすなどの工夫をしている。
- 四條畷市では、小学校から毎日の英語ドリルや民間英語資格テスト受験に取組み、中学校では英語資格テストの費用を市が負担しており、All Englishの授業を推進するため、府教育庁及び教科書執筆者の協力を得て実践的研修も行っている。高校ではどうか。
→英語は主体的・対話的な授業づくりが進んでいる。小・中・高と連続性のある指導を行い取り組みの効果を高めたく、四條畷市の授業研究に本校も参加させていただきたい。
- 不登校傾向のある生徒の支援については、引き続き取組んでもらいたい。
→合理的配慮に基づき、個別的教育支援計画を作成して、しっかり取組んでいきたい。

【第2回】平成29年11月21日(火)

- 文理学科のみの募集になるにあたって、目標別・習熟度別の講座編成を行うとのことだが、どのような意図か。
→コース制は、どのようなコースでも「特進コース」と解釈されかねず、それではオール文理の意味がなくなる。ただ、生徒により目標も習熟度も異なるので、ニーズに沿った講座編成を行い、浮きこぼれも落ちこぼれも作らないとの意識で臨む。
- 課題研究の活動や活動報告、活動の記録を生徒たちはうまくできているか。
→活動の手引き及び専用の記録用紙を作成して配布している。課題研究と関連した教育活動はすべてそれを使って進めており、記録はポートフォリオ化する予定。

【第3回】平成30年2月27日(火)

- 支援検討会議とはどのようなものか。
→様々なケース会議を行っているが、特に「合理的配慮」に基づき個別的教育支援及び指導を行うケースで、個に応じた指導と支援のあり方を検討し、方針を学校としてオーソライズする親会議をこの名前でやっている。
- 生徒の発表力が高く、文化祭が印象的。生徒の学びを多様な尺度で公正に評価していくのは大変だが、保護者はそれを強く望んでいる。
- 課題研究の合同発表会を見て、「未完了の完成」の素晴らしさを感じた。これは大学で研究したいとの思いに繋がっていく。「課題を見つける」ことに力を入れていることは素晴らしい。
- 来年度は、働き方改革を一層すすめていきたいと思います。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「確かな学力」の育成と進路実現への支援	<p>(1) 「確かな学力」3要素の育成 ア より高い授業力を求めた授業研究</p> <p>イ 「主体的・対話的な深い学び」のある授業作り</p> <p>ウ ICT機器を効果的に活用した授業づくり</p> <p>(2) 高大接続システム改革に対応した指導と評価 ア 「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」に関する研究</p> <p>イ 課題研究等による確かな学力の育成</p> <p>(3) 進路実現の指導と支援 ア 飯盛セミナーなどを通じたキャリア発達の促し</p> <p>イ 自学自習の定着</p> <p>ウ 講習・補習等による自学自習の効果の向上</p>	<p>(1) ア・研究授業・授業公開を実施する。</p> <p>イ・「主体的・対話的な深い学び」のある授業作りの研究・実践を行う。</p> <p>ウ・ICT機器を効果的に活用した授業の研究・実践を行う。</p> <p>(2) ア・「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」に関する研究を行う。</p> <p>イ・新分掌GL部が中心となり全校体制で課題研究・探究活動を実施する。</p> <p>(3) ア・飯盛セミナー、大学研究室訪問を実施する。</p> <p>イ・学習合宿等の実施や自習室の開室など、生徒に自学自習の場を設ける。</p> <p>ウ・大学入試の傾向及び生徒の学習状況を分析し、生徒の状況に応じた講習・補習等を行う。</p>	<p>(1) ア・研究授業等の実施5回以上(H28:9回) ・アンケート(生徒)での「授業満足度」の肯定率90%以上(H28:88%)</p> <p>イ・アクティブラーニング(AL)の実施率80%以上(H28:90%) ・教科ごとのAL事例集作成(1月まで)</p> <p>ウ・ICT機器の活用率60%以上(H28:67%)</p> <p>(2) ア・「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」に関する研修の肯定率80%(新規)</p> <p>イ・アンケート(生徒)による課題研究等の肯定率80%以上(新規)</p> <p>(3) ア・飯盛セミナーの満足度70%以上(H28:71%)</p> <p>イ・自学自習時間の10%増(H28との比較)</p> <p>ウ・アンケート(生徒)での「先生は質問によく答えてくれる」の肯定率95%以上(H28:96%)</p>	<p>(1) ア・研究授業は、初任者10回・英語中高連携1回・数学指導教諭2回・SET2回、公開授業期間2回(重点公開教員17名)の計17回(◎) ・生徒の「授業満足度」は91%と3ポイント上昇(○)</p> <p>イ・ALの実施率は86%。いつも行っている教員は20%(H28)から28%(H29)と8ポイント上昇(○) ・各教科の実践をAL実践事例集にまとめた(○)</p> <p>ウ・ICT機器の活用率は72%となり5ポイント上昇(○)</p> <p>(2) ア・「大学入学共通テスト」等に関する研修の肯定率は97%と高評価を得た。(○)</p> <p>イ・課題研究を再構築し、1年生・2年生の全生徒が系統的プログラムに沿って課題研究に取組んだ。生徒の「課題研究への取組」の満足度は1年生84%(○)・2年生54%(△)と差がでた。2年生は発表内容等顕著な成長が見られるので、より達成感が得られるようプログラムを改善したい。</p> <p>(3) ア・飯盛セミナーは取組みの充実を図った結果、満足度は98%と大きく上昇した。(◎)</p> <p>イ・自学時間が増加した生徒は75%、1時間以上増加した生徒は55%で、自学自習時間は概ね40%増えた(◎)</p> <p>ウ・生徒による「先生の質問対応」の肯定率は96%(○)</p>
2 社会に貢献できる「豊かでたくましい人間性」の育成	<p>(1) グローバルリーダーとしての資質の育成 ア 生徒会活動、部活動等によるたくましい人間力の育成</p> <p>イ 頭髪・服装・挨拶・マナー等の指導を徹底及び環境や人権に対する意識の向上</p> <p>(2) コミュニケーション能力等の育成 ア 校内発表会への取組を通じて、能力の育成を図る</p> <p>(3) 国際交流活動の充実 ア 海外との交流を活用したグローバルリーダーの育成</p> <p>イ TOEFL仕様の授業や講習による実用英語力の向上</p>	<p>(1) ア・文化祭等行事や部活動のさらなる充実</p> <p>イ・全教員で登校時の生徒指導を行う。 ・人権HRをはじめ、教育活動全体において、生徒の人権意識の向上をはかる。</p> <p>(2) ア・情報プレゼンテーション大会(霜月杯)・英語暗誦大会(如月杯)、課題研究成果発表会(2回)などの発表を充実させ、校外での発表につなげる。</p> <p>(3) ア・台湾、オーストラリア、ドイツ、ベトナムなど海外との交流を活用して課題研究の質を向上させる。</p> <p>イ・国際交流キャンプ、TOEFL仕様の授業や講習などを通じて、使える英語力を向上させる。</p>	<p>(1) ア・アンケート(生徒)による「畷高祭の工夫」に関する肯定率90%以上の維持(H28:95%) ・部活動の加入率90%以上(H28:92%) ・近畿大会4種目以上出場(H28:6部7種目)</p> <p>イ・アンケート(生徒)による「挨拶をよくする」の肯定率90%以上(新規) ・アンケート(生徒)による「人権や社会のルール」への取組みの肯定率75%以上(H28:71%)</p> <p>(2) ア・アンケート(生徒)による「発表活動のチャンスが多い」の肯定率85%以上(H28:84%) ・校外のコンテスト等での入賞10件以上(H28:7件)。</p> <p>(3) ア・海外との交流を活用した課題研究等の実施5本以上(新規)</p> <p>イ・CEFRのB1レベル到達率40%、B2レベル3人(H28:27%、2人)</p>	<p>(1) ア・生徒の「畷高祭の工夫」への肯定率は95%(○) ・部活動の入部率は、全校93%・1年生96%(○) ・近畿大会以上に、男子ソフトテニス(2種目)・女子ソフトテニス・水泳・バドミントン・山岳・軽音(グランプリ大会)、写真部(全国大会)の7部8種目が出場した(◎)</p> <p>イ・登校指導をはじめ、全教員で指導にあたっており、生徒の「挨拶をよくする」への肯定率は91%(○) ・生徒による「人権や社会のルールへの取組み」への肯定率は79%と8ポイント上昇した。(◎)</p> <p>(2) ア・授業内での発表活動に加え、校内発表会の活動も充実しており、生徒による「発表活動のチャンスが多い」の肯定率は86%。(○) ・京都大阪数学コンテスト1件・日本数学コンクール2件・化学グランプリ1件・ライオンズクラブ英語弁論大会2件・NBKビジネスアワード2件・大阪サイエンスデイ4件(16名)・全国英作文コンテスト1件の計13件(25名)が入賞(◎)</p> <p>(3) ア・オーストラリアとの英語授業での交流2本及び課題研究2本、Nawakoスタッフによる英語での畷高史紹介2本の計6本(○)</p> <p>イ・TOEFL対象3年生の44%がB1に到達。B2レベルは全校で8名となった。(○)</p>
3 学校力・教員力の向上	<p>(1) 機動力のある組織体制 ア ミドルアップダウン型の運営体制づくり</p> <p>イ グローバルリーダー育成のための組織体制の再構築</p> <p>(2) 研修等による教員力の向上 ア 校内研修を計画的実施</p> <p>イ 法定研修を活用したOJTによる教員力の向上</p> <p>(3) 広報活動の充実による教育力の向上 ア 広報活動による本校の特色とアドミッションポリシーの発信</p> <p>(4) 安全で安心な学校生活への環境整備 ア 個人情報の適正な管理と事故対応への体制整備</p> <p>イ 支援や指導を要する生徒への適切な対応</p> <p>ウ 災害や事故等発生時の体制整備</p> <p>エ 障がいのある生徒への合理的配慮と必要な支援</p> <p>(5) 地域に信頼される学校づくり ア 四條畷市等との連携</p> <p>イ 部活動や学校行事、課題研究の成果発表などを通じた地域貢献</p>	<p>(1) ア・経営企画会議で課題認識の共有を図り、運営委員会において取組を検討する。</p> <p>イ・新分掌GL部の立ち上げに伴い業務分担の再構築を行い、より教育効果が上がるよう取り組む。</p> <p>(2) ア・校内研修の系統的中期計画の策定 イ・初任者へのメンター制度を導入しOJTによって双方教員力を向上させる。</p> <p>(3) ア・校内・外での学校説明会などで積極的に本校の特色とアドミッションポリシーを発信する。</p> <p>(4) ア・個人情報の適正な管理と事故対応について、周知徹底を図る。</p> <p>イ・ケース会議により支援検討を行い、適切な合理的配慮と支援を行う。 ・必要に応じて専門家や関係機関と連携し、適切な支援を行う。</p> <p>ウ・大規模災害時初期対応マニュアルを作成し四條畷市と共有する。</p> <p>エ・支援コーディネーターを中心に、全校体制で自己実現への支援を行う。</p> <p>(5) ア・小中学校への出前授業等、四條畷市等と交流した取組を行う。</p> <p>イ・地域住民に向けた部活動の取組みや課題研究の成果発表などを行う。</p>	<p>(1) ア・経営企画会議の定例化(毎週) ・アンケート(教員)での「教育活動全般の評価と検証」の肯定率を70%以上にする(H28:60%)</p> <p>イ・グローバルリーダー教育を系統的に整理し計画を策定する(12月)</p> <p>(2) ア・研修の効果測定を行い、肯定率を70%以上とする。(新規)</p> <p>イ・メンター制度の満足度を70%以上とする。(新規)</p> <p>(3) ア・学校説明会への参加者数2,000名以上の維持(H27:2,868名) ・HPの更新120回以上(H28:90回)</p> <p>(4) ア・アンケート(教員)における教職員の「個人情報に関する管理システムの確立」に対する肯定的評価70%以上(H28:71%)</p> <p>イ・アンケート(教員)での「教育相談体制」への肯定率80%以上(H28:75%)。</p> <p>ウ・四條畷市との協議及びマニュアルの策定(1学期)</p> <p>エ・アンケート(保護者)での「心身の健康等、相談に適切に対応している」に関する肯定率78%以上(H28:75%)</p> <p>(5) ア・出前授業等連携した取組を3回以上行う。(H28:3回)</p> <p>イ・地域住民等に向けた取組を3種類以上行う(H28:4種類)</p>	<p>(1) ア・経営企画会議は定例化しており、学校の課題や戦略について検討するなど有効に機能。(◎) ・教員による「教育活動全般の評価と検証」の肯定率は72%と12ポイント上昇。(○)</p> <p>イ・全クラス文理学科の募集にも対応できるGL教育の系統的整理を行い、課題研究と授業や各種教育活動を関連付けた実施計画を策定した。(○)</p> <p>(2) ア・研修への参加者による肯定的評価は99%(◎)</p> <p>イ・2年目・10年目教員をメンターに指名し、初任者ミーティングや日常のOJTで教員力向上を図っている。メンター・メンティ共に満足度100%(○)</p> <p>(3) ア・学校説明会等は、6月・9月・11月・12月・1月の5回実施し、参加者数は2615名(○) ・HPの更新は120回(○)</p> <p>(4) ア・教員の「個人情報に関する管理システムの確立」への肯定率は66%に留まり一層の取組みが必要(△)</p> <p>イ・支援検討会議を組織し、「合理的配慮」に基づき個別の教育支援計画を立て実践している。 ・教員による「教育相談体制」の肯定率は74%(△)</p> <p>ウ・四條畷市と協議のうえ災害時初期対応マニュアルを策定し本校での市民対象の防災訓練を開催(○)</p> <p>エ・合理的配慮に基づく支援体制を構築した。保護者による「心身の健康等、相談に適切に対応している」の肯定率は85%と10ポイント上昇(◎)</p> <p>(5) ア・四條畷市との中高連携英語授業研究(3回)、「なわて学」での生徒発表(1回)、門真市立中学での出前授業(1回)四條畷市長によるセミナー(1回)の4種6回(◎)</p> <p>イ・地域等に向けた取組は、吹奏楽・ギターマンドリン部・茶道部などで8種類、演奏会等への招待や中学校との交流まで加えると計15種類実施(◎)</p>